

3) 陸域生態系（カンムリワシ等）

環境監視の概要は以下に示すとおりである。

項目	カンムリワシの繁殖行動及び、採餌行動、若鳥等のねぐら行動 リュウキュウツミ及びズグロミゾゴイの繁殖行動及び採餌行動
調査地点・範囲	カンムリワシは、カタフタ山のつがいの繁殖行動及び採餌行動が視認出来る場所 リュウキュウツミ及びズグロミゾゴイは主な確認地点であるタキ山付近及び事業実施区域が見通せる場所
調査時期等	工事の実施及び航空機騒音の影響として飛行場の施設の供用後3～5年程度（状態が安定した時点で終了）。 調査時期は、カンムリワシについて繁殖行動及び採餌行動が頻繁に見られる2、3、4月及び若鳥が巣から離れて行動する時期の7～8月とする。リュウキュウツミ及びズグロミゾゴイについて繁殖期の4月と巣立ちの後の幼鳥が確認できる時期の7～8月。
調査方法	<p>カンムリワシについては、「猛禽類の保護の進め方(特にイワシ、カマカ、材カについて)」(環境庁)に準拠した方法により、カタフタ山周辺域において繁殖の可能性のあるつがいを個体識別し、求愛行動や交尾行動、なわばり行動等の繁殖行動を記録する。採餌行動は主要な餌場である水田や県道において待ち伏せや狩猟等の採餌行動を記録する。また、若鳥や移動個体が利用するねぐら場所を記録する。</p> <p>また、カタフタ山などの樹林地においてはリュウキュウツミやオサハシブトガラスなどの繁殖もこれまでに確認されており、調査中にこれらの種が確認された場合は、併せて記録を行う。</p> <p>リュウキュウツミ及びズグロミゾゴイについては、定点観測により、繁殖行動及び採餌行動を記録する。</p>